

6月18日(金) p.m. 6:30 - 8:30  
 県立図書館ホール

参加券 300円



(1)

記録映画 (モノクロ, 60分)

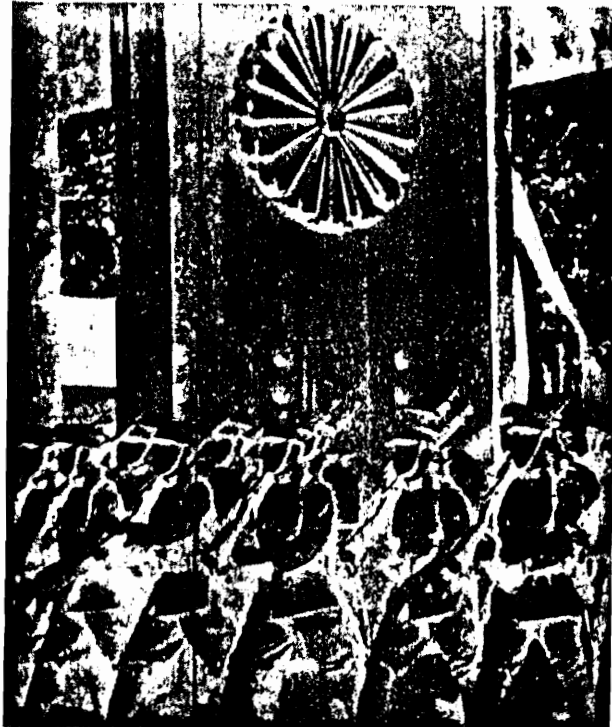
# 「侵略 語られなかった戦争」

■製作・脚本 / 森 正孝

軍国主義化許さない世論を  
 たかめる武器として

満州事変(柳条溝事件)から50年、太平洋戦争開始から40年を経た今日、日本は日米軍事同盟によって再び戦争への道へ、急速に歩んでいます。いま核戦争の危険と軍国主義化に反対する国民世論を大きく高めるときです。私達は、かつての中国をはじめとする侵略戦争の惨禍と教訓を国民に広く知っていただく事がいま大切だと考えています。「悪魔の飽食～関東軍満州第731石井細菌部隊の記録」の著者森村誠一氏も「加害の記録こそ戦争体験の核心として語り継がなければならない」と語っていますが、「語られなかった戦争～侵略」は、侵略戦争の本質と実態を知るうえで貴重な教材です。

新たな戦争への道を阻止するために侵略戦争を告発し、日本政府の政治責任を問う世論を広くまきおこしましょう。



この映画は  
 1937年7月7日蘆溝橋に始まった  
 日本帝国主義の  
 中国本土への全面侵略の過程と  
 その泥沼化の中で行なわれた  
 南京大虐殺・三光政策(焼き尽し、奪い尽し、  
 殺し尽す)・石井部隊細菌作戦等の事実を構  
 成したものである。

保存所  
 あります  
 ご利用下さい

映画と体験で考える戦争の実態

や5回憲法と平和を考えるつどい

主催: 日本科学者会議  
 官崎民主法律家協会  
 連絡先: 官崎総合法律事務所  
 ☎ 0985-24-8954

(2)

カラーアニメ  
 (9分40秒)  
 監督:  
 小下 蓮三



(3)

銃口は国民に向けられている  
 — 有事立法 —

記録映画(カラー, 18分)  
 監督: 秋吉 宣子

第5回 憲法と平和を考えるつどい

# 映画と体験で考える 戦争の実態



記録映画『侵略』…旧日本軍の中国への侵略戦争の実態

アニメ『ヒコカドン』…原爆投下時、子供の紙ヒコーキはどこへ

記録映画『これが有事立法だ』…今、軍拡の銃口は国民に向けられている

1982年6月18日(金)

p.m. 6:30-8:30

県立図書館ホール

参加券 300円

主催: 日本科学者会議 官崎支部  
官崎民主法律家協会

連絡先: 官崎統合法律事務所 ☎0985-24-8954



# 日中戦争地図

※5回憲法と平和を考えるつどい

## 映画と体験で考える 戦争の実態

- 記録映画『侵略』（制作・脚本；森正孝）
- カラーアニメ『ピカドン』（監督；小下蓮三）
- 記録映画『銃口は国民に向けられている』（監督；秋吉宜子）

1982年6月18（金）

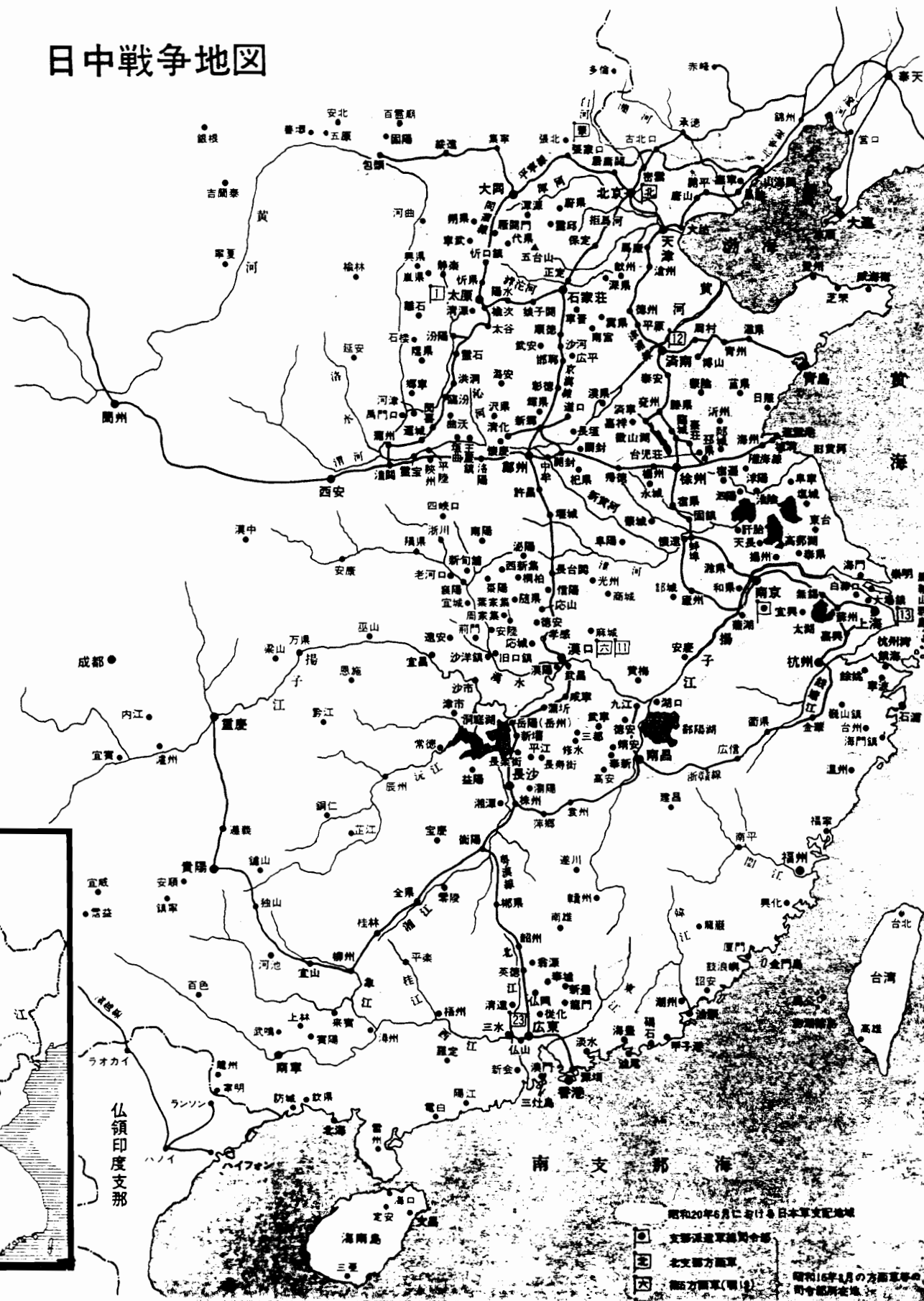
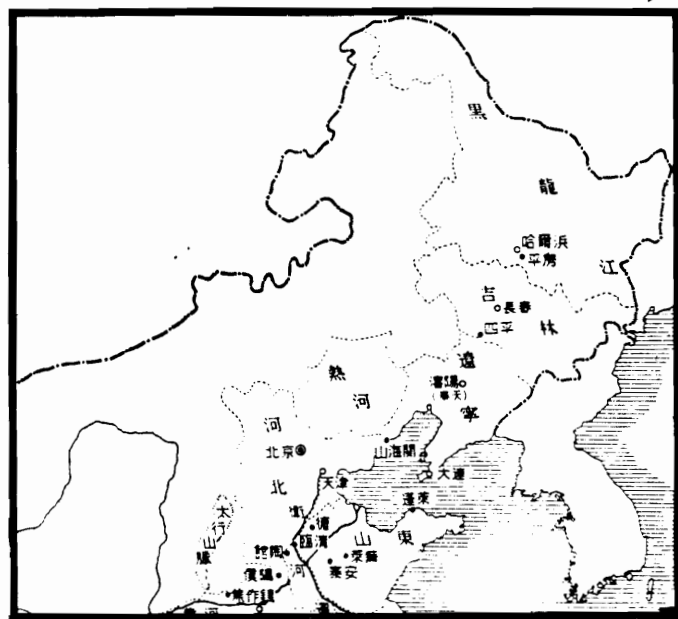
p.m. 6:30 - 8:30

県立図書館ホール

主催：

日本科学者会議官崎支部

官崎民主法律家協会



# 南京大虐殺資料

〔「一億人の昭和史」(毎日新聞社)より〕

## 東京裁判の法廷で

ジョン・G・マギー神父

〔陥落当時、南京難民国際委員会を組織。この証言は一九四六年八月一五日のもの〕

日本軍の暴行は殆んど信用することの出来ない程ひどいものであります。最初其の日本軍に依りまする中国人の殺戮が始まりましたのは、色々な方法で行われたのであります。先ず最初には日本軍の兵隊が個々別々に凡ゆる方法に依つて中国人を殺したものであります。其の後に成りまして三十名若しくは四十名の日本軍が一団となつて、其の殺戮行為を組織的にやつて行つたのであります。是等の日本兵は其の市中に全く中国人の生命即ち死活の権を全然握つたように思われたのであります。(中略)

(二月一七日)私共是れだけの外国人(三人)は家のバルコニーから外を見まして、實際中国人が一人殺されるのを目撃したのであります。一人の中国人が通りを歩いて居たのであります。それは何れも絹の着物を着て居りました。それを日本の軍人が後ろから誰か何したのであります。そうしますと此の中国人は非常に驚きまして、歩行を早めて逃げて去ろうとして、丁度其の先の所にあります角の所を曲ろうと致しました所が、其処には

丁度竹垣がありまして行詰りになつた為、逃げる事が出来なかつたのであります。それを日本人の兵隊が此の中国人の顔に向けて発砲して殺したのであります。

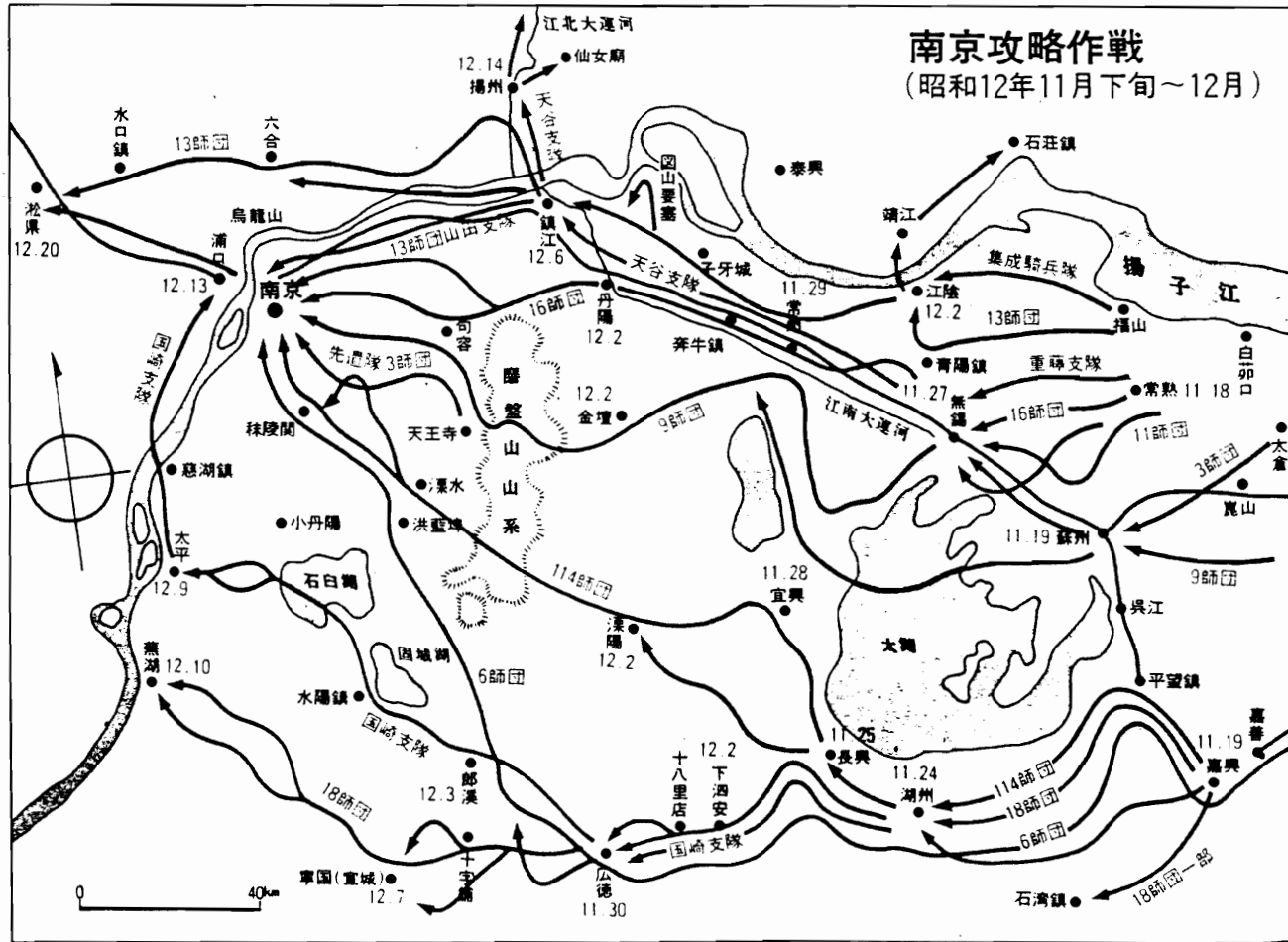
まるで彼等は何事も起らなかつたように、さり気なく煙草を吹かしながら歩き続けて行つてしましました。恰もそれは野鴨狩りでもして居つたような平気な態度でありました。二月一八日のことであります。私は日本大使館の田中領事と一緒に同行することを要求されて、一緒に行つたのであります。それは南京の市内の外国人の住んで居る場所へ行つて、外国人の所有物を指摘し、それを保護する為に掲示をなすという為でありました。私が城壁外に出ることは殆んど不可能であつたのであります。唯田中領事と同伴の下で、ありましたので、城壁外に出ることが出来たのであります。私は近道をしようと思つて、横道に入りましてたけれど、屍体が多くて、屍体の上を運転して行かなければ通れないのであります。到頭私達は其の横道を引返した程でありました。……(私は)海岸の所に行つて下を見下しますと、其処に約三つになつて居る屍体の固まりがあるのを見たのであります。……大体の見当では約三百から五百と思つたのであります。(後略)

〔「極東国際軍事裁判速記録」雄松堂書店刊より 片仮名を平仮名に改めた〕

## 南京攻略戦戦闘経過

昭和12年 1937年

- 11・5 第一〇軍 杭州湾上陸
- 11・7 中支那方面軍を編合、中国軍掃滅を下命 蘇州、嘉興以東を作戰制令線と指示
- 11・13 第一六師団・重藤支隊 白茆口上陸 第一〇師団 嘉定奪取
- 11・19 第九師団 蘇州占領 白茆口上陸部隊が常熟占領 第一〇軍主力は嘉興を占領し南京追撃の軍命令を下す
- 11・24 参謀本部 作戰地域撤廃を指示
- 11・25 第九・一一・一六師団主力 無錫占領
- 11・29 無錫占領部隊の追撃隊 常州進出 第一三師団 江陰砲台占領
- 11・30 第一八師団 広徳を占領
- 12・1 南京攻略の大連発第8号が下る
- 12・2 第一六師団追撃隊 丹陽を 第九師団追撃隊 金壇を占領
- 12・7 中支那方面軍「南京城攻略要領」示達
- 12・9 方面軍司令官 中国軍に開城勧告
- 12・10 13時に総攻撃命令 第九師団、光華門 左翼隊が城門占領 第一一四・一六師団 雨花台から複郭陣地攻撃 第六師団の一部は揚子江岸で中国軍と遭遇 第一六師団 紫金山方面を攻撃
- 12・12 第六師団の一部 中華門付近の城壁を奪取 第九師団、右翼隊が東郊のクリーク(幅二〇〇) 渡河準備 第一八師団に杭州攻撃準備下令
- 12・13 第三師団先遣隊が南京城攻撃に参加 早朝に中国軍の退却が判明 第九師団、光華門 第六・一一四師団、中華門 第一一六師団、中山門方面から入城 第一三師団、山田支隊は揚子江岸烏龍山占領 第六師団の一部は下関に進出し江上を舟艇で敗退する 中国軍を攻撃 第一三師団天谷支隊は鎮江付近で揚子江渡河 国崎支隊は浦口を占領
- 12・14 第一三師団山田支隊 幕府山占領
- 12・17 南京入城式



# 六七三二部隊 資料

「悪魔の飽食」森村誠一著

光文社

## 人間バーベキューと串刺し

安達特設実験場では、細菌兵器や通常殺人の「実験」だけでなく、一般兵器のテストもおこなわれた。「丸太」を材料にした殺傷力性能テストである。

一九四三年夏のある日のこと、広大な安達特設実験場に、使い古され廃棄処分寸前の戦車、装甲車あわせて十数台が並べられた。

やがて飛行場から草色と白の迷彩をほどこした車両が到着し、手錠、足枷をつけた「丸太」十数人が数珠つなぎとなって降りてきた。

第七三二部隊写真班員がカメラを向け、シャッターを切る。暑い日であった。

草色の軍服を着せられた「丸太」たちは、ぞろぞろと引き回されながら、車両の前になると一人ずつ切りはなされ、目の前の戦車や装甲車に乗り込むよう強制された。周囲は軽機関銃や歩兵銃で武装した特別班員たちが包囲している。反抗も逃亡も不可能である。

戦車の中には二人、装甲車には一人、手足の自由を奪われた「丸太」は、狭い搭乗口から押し込まれた。鈍い音がして搭乗口が閉じられ、「丸太」は密室の中でうずくまっていたまじまじ汗を流していた。

「丸太」たちが一人残らず密室に入ったのを見届けて、安達特設実験場の片隅から関東軍司令部の派遣した兵士たちの一団が姿を現わした。

兵士たちは背中に草色のタンクを背負っていた。タンクの中には圧縮空気とセットになったガソリン、重油から成る液体燃料（焼夷剤）が入っていた。タンクの右肩からホースがのび、ホースの先端には金属製ノズルが装着されていた。火炎放射器である。

火炎放射器を持った兵士たちは戦車からそれぞれ十メートル、二十メートル、三十メートルのところ立った写真班も待機する。

甲高い号令が実験場を制し、兵士たちは立てひざの姿勢になり火炎放射器のノズルを戦車や装甲車に向けた。今やなにがおこなわれようとしているか明らかだった。陸軍が新しく開発した焼夷剤と火炎放射器のテストである。

ふたたび甲高い声で命令が下った。その後、おそろしい光景が出現した。兵士たちの支え持つノズルの先から白熱の炎が噴出し、「丸太」を閉じこめている戦車と装甲車を包み込んだ。ごうごうと音を立て一千度以上の焦熱地獄が、車両を覆いつくした。小さな爆発が起こった。

この間二十秒、いや十秒ぐらいたったか。号令とともに火炎放射が止んだ。

赤黒い煙の中から焼けただれた車両が姿を現わした。戦車の砲身の先からチロチロと炎が立っていた。キャタビラや装甲板が高熱で歪み、曲がっていた。傾いた車両もあった。

しばらくして車両の中が検められた。戦車や装甲車の中には、黒焦げになった「丸太」たちがいた。人間のバーベキューである。写真班員たちが車両ごとの情景をフィルムに収めた。

「マルタの多くは労働者や知識人や学生で、特設監獄から引き出される時に死が待っていることを直感していた。だから、出るのをいやがった……それを七三二の通訳がロシア語や中国語を操って、『別になんにもしないんだ、車の中に入ってくれるだけでよい、これが終われ

ば解放する』となだめすかし、だまして飛行機に乗せ安達実験場までつれていった」

元隊員の証言である。

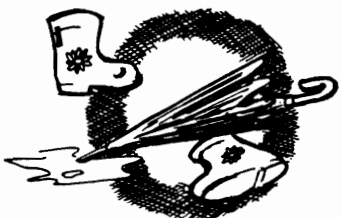
また安達ではこんな「実験」もおこなわれた。運んできた「丸太」に目かくしをし、何組かに分けて身体を密着させたまま十人ずつ縦に並ばせるのである。一組には分厚な防寒服を着させ、一組にはふつうの軍服を着せ、またある組は裸のまま、というように。前後の間隔を詰め、身体を密着したまま、縦に並んだ「丸太」を第七三二部隊は「串刺し用の実験材料」と見立てた。

整列した「丸太」の各組の前に実弾を装填した三八式歩兵銃を持った隊員が、立射の構えで至近距離から一番先頭の「丸太」に照準を合わせた。

「撃て！」三八式歩兵銃が火を噴いた。一発の銃弾で「丸太」の身体が、先頭からエビのようにね上がりつぎつぎと倒れていった。

「貫通五……こちら貫通四……こちら貫通三……」記録用紙を手にした隊員が「三八式歩兵銃を××メートルの至近距離から発射した場合の防弾具、普通軍装、裸体の人体貫通性能」を記入していった。この「実験」は繰り返しておこなわれた。

すべてこれは、あの時代に生きて日本人みずからやったことなのである。



## 人間の「生き造り」

中国人少年は、命じられたとおりに上半身裸になり、台の上に身を横たえた。

仰向けに寝た少年の口と鼻にクロロホルムを浸した脱脂綿が押し当てられ、麻酔がかけられた。中国人少年はこれから自分の身のうえになが起るかを理解していなかった。

下穿きを脱がせると、少年の生殖器にはほとんど陰毛がなかった。大体において中国東北部の人びとは体毛が薄いのであるが、生殖器の形やその周辺からみて、少年の年齢は十二・十三歳ぐらいと見当がついた。

全身に麻酔が回ったころ、中国人少年の身体がアルコールで拭き清められた。

台を囲んだ田部班員の中から、K雇員が手にメスを握って一歩少年に近寄った。胸部に沿ってY字型にメスが入る。コッヘル鉗子で止血された皮膚に血玉がブツブツとわき出て白い脂肪が露出した。生体解剖がはじまった。

「少年はマルタやない……子どもやから別に抗日運動をやったわけではない。それを解剖したのは、健康な少年男子の臓器が欲しかったため、とあとでわかった。少年はそれだけのために生きてきたまま腑分けされたんや……」のちにこの解剖光景を回想した元七三二部隊員のことばである。

眠っている少年の体内から腸、脾臓、肝臓、腎臓、胃袋と手順よく各種の臓器が取り出され、一つずつ選り分けられてはバケツの中にとどき、どきりと投げこまれた。バケツの中に放り込まれた臓器は直ちに備え付けの大きなホルマリン液の入ったガラス容器に移され、蓋が閉まった。

少年の体液にぬれてメスが光る。血泡の噴き出る中、K雇員の手ぎわよい「執刀」により、少年の下半身はほとんど空洞になった。取り出されたある臓器は、ホルマリン液の中で、びくびくと盛んな収縮運動を繰り返した。「おい、まだ生きてるやないか……」

だれかがいった。人間の生き造りであった。胃袋を取り、肺を切除したあとは、中国人少年の頭だけが残った。いが栗坊主の小さな頭である。それを藻班の一人が台に固定し、耳から鼻にかけて、横へメスを入れた。

頭皮が切り落とされたあと、鋸が入り、頭蓋骨が三角形に削ぎ取られた。脳が露出したところで、隊員が柔らかな保護膜に手を突っこみ、少年の脳を取り出し、手早くホルマリン容器の中に入れた。台の上には少年の四肢と空洞になった身体だけが残った。

これで解剖は終わった――。

「持っていく」少年の臓器を入れたホルマリン容器を、待機していた別の隊員がつぎつぎと持ち去った。少年の強制された死に、一瞬の感傷も寄せられなかった。それは処刑ですらなかった。悪魔の食糧に供せられた一体の肉にすぎなかったのである。

隊員が廊下を歩くと両手の中でガラス容器がゆれ、タブと音を立てて臓器が収縮した。かなり重いその容器を、隊員たちは落とさないよう、全身に力を入れてゆつくりと捧げ歩いた……。

おそらく思春期の門口に立っていたであろうこの中国人少年の名は多数の「丸太」同様いまだにわからない。少年は自分が生きながら解剖されていることを、知る由もなかった。少年に強制されたわずかなまどろみのうちにすべてが完了したのである。

突然、行方不明になったままついに帰ってこなかった少年について、中国人の親たちはさぞ嘆き悲しんだことであろう。少年には姉や妹はいなかったのだろうか。彼には受け持っていた労働もあり、くちびるには口ずさむべき歌もあったらう。

生きていればその将来に多数の出会いがあり、どんな可能性の花を開いたかもわからない。まどろみのうちにホルマリン液に浸された少年の脳は、収縮の合間になにか夢らしきものでもみたのであろうか。

元隊員たちの回想によれば、第七三二部隊には、時折わけのわからない「捕虜」が移送されてきた。解体された少年はその一例である。ほかに「ヨーロッパ系の外国人」が一人、特設監獄にいたという風評が隊員の間で流れていた。

第七三二部隊は、対ソ作戦とともに米國にたいしても細菌戦を実行する計画を持っていた。そこから、この外人がアメリカ人であるという推測も生まれた。いや、日本軍が上海で捕えたイギリス人であるという話もあった。太平洋戦争の過程で東南アジアで捕われの身となったオランダ人である、ともいわれた。

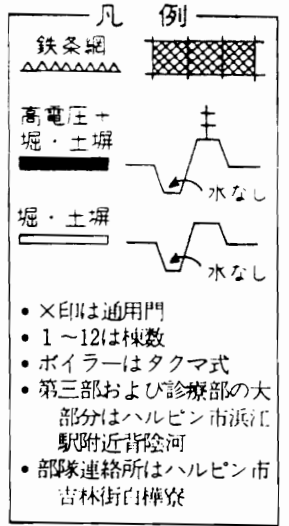
生産したベスト・ノミが「あっちのほうの毛唐にも効くかどうか」の実験が、この外人を待っていたという。



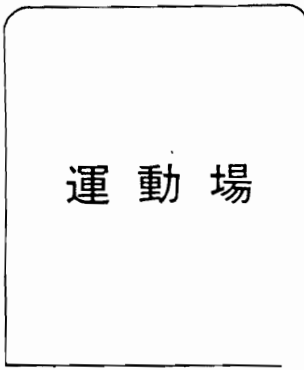
# 關東軍防疫給水部本部 滿洲第七三一部隊要図

部隊長 石井中将 (北野少将)  
 総務部長 太田大佐 (中留中佐)  
 第一部長 菊地少将 細菌研究  
 第二部長 太田大佐(兼) 実戦研究  
 第三部長 江口中佐 濾水器製造  
 第四部長 川島少将 給水実戦研究  
 教育部長 西中佐 (園田大佐) 細菌製造  
 資材部長 大谷少将  
 診療部長 永山大佐

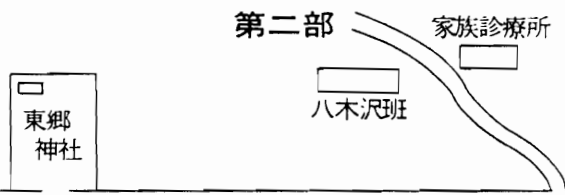
ハイラル支部  
 林口支部  
 孫呉支部  
 牡丹江支部  
 安達実験飛行場



四屯 五屯 第一衛兵所

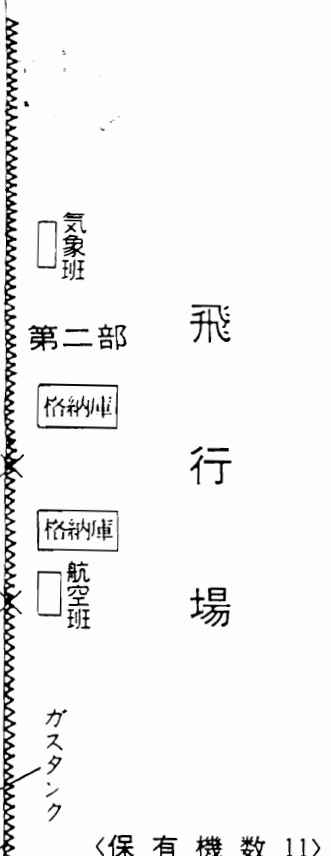
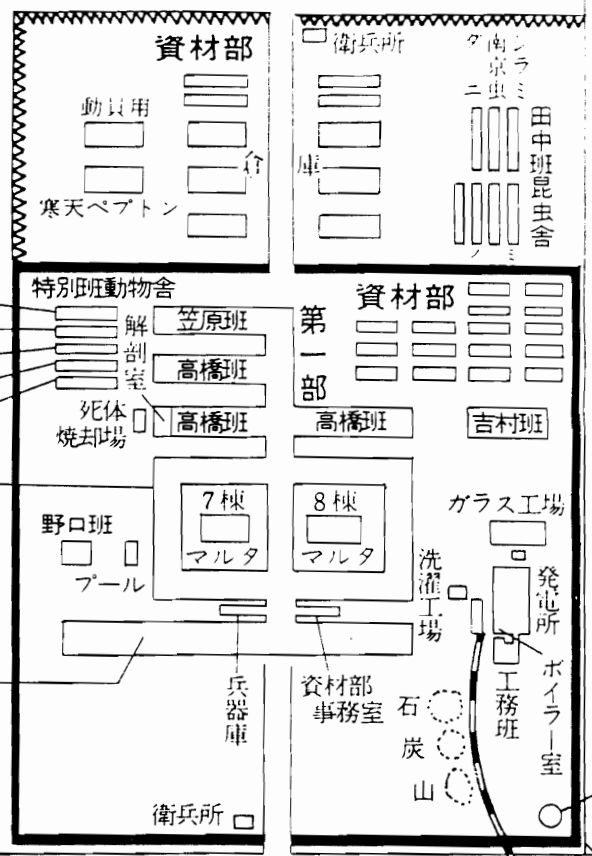


農場

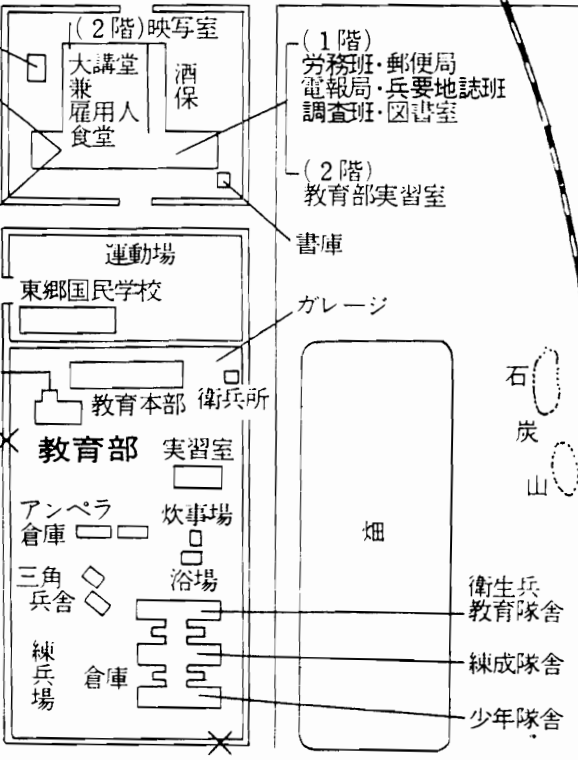
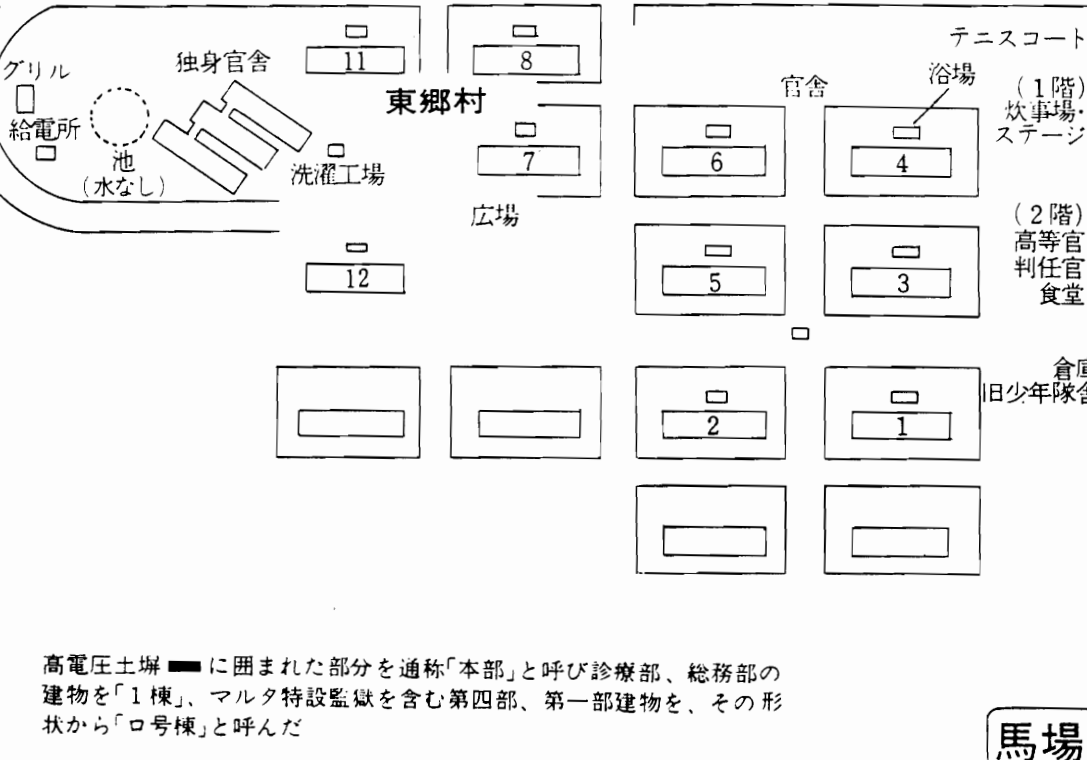


第四部 (1階) 柄沢班  
 第一部 (2・3階)  
 (2階) 吉村班・湊班・江島班・太田班・岡本班・石川班・内海班  
 (3階) 田部班・二木班・草味班

診療部 総務部  
 (1階) 診療室・調査課印刷班・憲兵室  
 調査課庶務班・調査課課長室  
 調査課写真班・管理課・人事課  
 (2階) 陳列室・会議室・会計課・庶務課  
 靈安室・企画課・副官室・隊長室



高等官官舎  
 原技師 1部 笠原班 ウイルス研究  
 田中少佐 1部 田中班 昆虫研究  
 吉村技師 1部 吉村班 凍傷研究  
 高橋少佐 1部 高橋班 ペスト研究  
 石井技師 直 特別班 丸太(マルタ)  
 江島技師 1部 江島班 赤痢研究  
 太田大佐 1部 太田班 脾脱疽研究  
 湊技師 1部 湊班 コレラ研究  
 岡本技師 1部 岡本班 病理研究  
 石川技師 1部 石川班 病理研究  
 内海技師 1部 内海班 血清研究  
 田部中佐 1部 田部班 チフス研究  
 二木技師 1部 二木班 結核研究  
 草味大佐 1部 草味班 薬理研究  
 柄沢少佐 4部 柄沢班 細菌製造  
 野口少佐 1部 野口班 ケッチャ(マ)研究  
 八木沢技師 2部 八木沢班 植物研究



<保有機数11>  
 呑龍爆撃機  
 九七式重爆一型  
 九七式重爆二型  
 九九式双軽  
 九九式单軽  
 九九軍偵(九九襲)  
 100式輸送機  
 隼戦闘機  
 患者輸送機  
 AT旅客機(97式輸送機)  
 愛国機(使用不能)  
 衛生兵教育隊舎  
 練成隊舎  
 少年隊舎  
 至八三七二部隊平房

高電圧土塀に囲まれた部分を通称「本部」と呼び診療部、総務部の建物を「1棟」、マルタ特設監獄を含む第四部、第一部建物を、その形状から「ロ号棟」と呼んだ

馬場

# ピカドン

幼い子の紙飛行機はいまも……

▶ 短編アニメ『ピカドン』の訴え ◀



山田 和夫

戦後日本映画の良心は、どれほどくり返し、広島・長崎・ピキニの悲劇を映像化してきたことだろう。そしていま、アニメーション映画の良心が、そのジャンル独自の力を発揮して、この貴重な日本映画の流れに新しいページを加えた。

木下蓮三監督を中心としたスタジオ・ロータスのグループは、1945年8月6日の、あの忘れることのできない一瞬を短編アニメ『ピカドン』に凝縮して描こうとした。

『ピカドン』のタイトルが終わり、日本家屋の一間がうつし出される。暗い。それが明るくなって1945年8月6日の朝が来る。父親はつとめに出かけ、長女は挺身隊の勤労奉仕へ。母親は赤子に乳をふくませ、幼い男の子は紙飛行機をとばせてあそびまわる。戦争末期の陰うつな日々でも、広島島の街に日常のいとなみはつづく。徒歩で仕事場へ急ぐ人、市電を待つ列。学校で、職場で、いつもの日課や仕事が始まる。爆音。警報。そしてB29の来襲。そして史上はじめて人間の上に投下される黒い悪魔の爆弾……

アニメ・ドキュメントとっていい淡々とした画像の展開が、一瞬地獄図絵に変わる。

すさまじい爆風がビルを倒し、灼熱の光が人びとの体を焼く。赤児を抱く母親の皮フがペロリとむけ、眼がとび出す。助けを求める手をにぎった人の掌には、その皮だけが残る。人によっては、この地獄図絵に目をおおい、顔をそむけるかも知れない。しかし、私たちがすでに原爆記録映画やさまざまな文献から知る核爆の悲惨はこんな程度ではない。もし同じ状況を普通の写真的映像で再現すれば、まずほとんどの人が直視することにはたえるまい。まさにアニメであればこそ、まだ、この地獄を直

視できるし、直視すべきである。

一望の焼土と化した広島。その記録実写のなかに、いたいけな子どもの死体。写真的映像の特殊処理と描画的画像の大胆な組み合わせ。そしてその子どもがほんの少し前まで、紙飛行機をとばしていた、あの子であったことをふたたび私たちはアニメで見る。その紙飛行機がどこまでもどこまでもとぶ。街を、野を、山を、海を越え、なつかしい父母や姉妹たちの姿を見おろしつつ。

今日の広島。見事に復興し、きらびやかなネオンに彩られるビルの林立。その上空をあの紙飛行機の黒い影がゆっくりと通りすぎていく。…それはまるで幼い命を無惨に散らされた子どもたちの魂が、いまもなお、私たちの上をさまよっているように。



そう。あの日、広島でごう火のなかにもだえ死んでいく十万人の魂は、今日の広島の上空にも、いや私たちの住むすべての街や村にも、さまよいつづけ、訴えつつけている。

私たちはこのみじかいアニメ『ピカドン』を見終わって、いやでも、この紙飛行機の黒い影のことを考えつづけ、その訴の意味するものをかみしめ直すにちがいない。

アニメがどれほど多様な可能性をもち、いかに力強く私たちの願いを映像化できるか、そのことも『ピカドン』はあかしたててくれるのである。



## 有事立法(中間報告)の骨子

- 一、有事の際は医師、看護婦、船員、トラック運転手、民間パイロット等を徴用できる
- 一、土地強制使用の時期を早め、物資収用、土地の強制使用は公用令書の交付なしでもできる

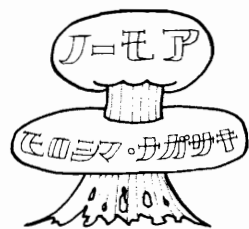
- 一、自衛隊の任務遂行上必要な物資の保管をその取り扱い者に命じ、違反者に対する罰則を付する
- 一、陣地を構築したりする際、邪魔になる家屋などを撤去できる
- 一、防衛出動待機命令下でも特別な部隊を編成したり、部隊防護のための武器使用を可能にする

## 国家総動員法(戦前)

- 一、政府ハ戦時ニ際シ………帝国臣民ヲ徴用シテ総動員業務ニ従事セシムルコトヲ得(第四条)
- 一、政府ハ戦事ニ際シ………総動員業務ニ必要ナル土地若ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理使用若ハ収用シ又ハ総動員業務ヲ行フ者ヲシテ之ヲ使用若ハ収用セシムルコトヲ得(第一三条三項)

## 戒厳令(戦前)

- 一、戒厳地境内ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸件ヲ執行スルノ権ヲ有ス(第一四條)
- 一、第二軍需ニ供ス可キ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スルコト
- 一、第五 戦状ニヨリ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ破壊燬焼スルコト



\*\*\* 戦前の国家総動員法と比較して下さい。これをみると有事立法がまさに戦時下の法律をねらったものであることがわかります。\*\*\*